

水難事故に備え体制強化！

津・松阪合同水難救助訓練を実施

津消防タイムズ

第29号



松阪市小野江町の雲出川下流にて訓練を行う水難救助隊員

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課
企画広報担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
☎224-1881
救急医療情報案内
☎256-1199

○津・松阪両消防本部から 六十名の署員が参加

近年のレジャーの多様化により海や河川での水難救助事案が全国的に増えてきています。本格的な夏のシーズンを迎えるにあたり、津市消防本部は五月十五日、松阪地区広域消防組合消防本部との境界を流れる雲出川で水難救助事故を想定した合同水難救助訓練を行いました。

訓練では、釣りをしていたゴムボートが転覆し、一名が行方不明になったと想定して、両消防本部から署員六十名（うち水難救助隊員二十八名）が参加しました。



指示を受ける両消防本部の救助隊員

訓練現場は約四メートルの水深があり、両消防本部の救命ボート四隻を使い水難救助隊員が的確な現場指揮のもと、連携して救助活動を行いました。

野田重門消防長は、「水難事故はあってはならないですが、万一事故が起こった場合、隣接する地域での応援・協力体制の確立が必要であり、今後とも両消防本部の連携強化を図りたい。」と述べていました。



↑救命ボートで救助に向かう救助隊員

↓救命ボートに資器材を搬入する松阪地区広域消防組合消防本部の救助隊員



○三恵技研工業(株)から

救急訓練資器材贈呈

津市消防本部は五月九日、三恵技研工業株式会社の創立六十周年を記念して、AED訓練用資器材及び訓練用ダミ―各五台の贈呈を受けました。



三恵技研工業(株)高田さんから目録を受け取る野田消防長

同日、津市中消防署安濃分遣所で行われました贈呈式では、三恵技研工業株式会社を代表して、同社安濃工場の高田佳明さんが、「今回贈呈いたします救急訓練用資器材を活用し、多くの市民の皆様に救急法等の指導を行って頂き、より多くの尊い命が救えることを期待します。」と述べられました。これを受け野田重門消防長は、「市民の皆様や事業所の方々の救命講習

○電話で消えた火事

会等で十二分に活用させていただくとともに、少しでも多くの命が救えるよう普及・啓発に励みます。」と感謝の意を述べました。今後は各消防署や自治会等が実施する救急法の指導等に役立てていきます。

五月上旬、「天ぷら鍋から火が上がった」と一―九番通報が入り、通信指令課職員は、消火器で消すよう指示しましたが、消火器の使い方がわからないとの返答。指令課員は「タオルがあればタオルを濡らし、鍋を覆うように掛けて下さい。」と指示しました。消防隊が到着したところ、既に火は消えており、初期消火に成功し、大事に至らずに済みました。



○住宅火災警報器の設置

義務を広く呼びかけ

天ぷら油火災は、あつてはいけません。万一の時は冷静に判断し、落ち着いて行動しましょう。また地域の防災訓練等で消火方法の指導を行なっています。積極的に参加し、防災知識を高めましょう。

津市消防本部と同市津・久居地域の消防団、同市防火協会は、五月十五日に津駅・津新町駅、久居駅、三重会館前のバス停において、仕事を終えたサラリーマンや買い物客を対象に住宅用火災警報器の設置を呼び掛けるキャンペーンを行いました。

住宅用火災警報器は、消防法の改正で、本年六月一日からの設置が義務付けられます。取付け場所が寝室で、寝室が二階以上にある場合は階段にも必要になります。

設置啓発キャンペーンには、野田重門消防長や吉川晴防火協会長をはじめとする同協会役員など、関係者四十二名が参加して、広く市民に住



街角で住宅用火災警報器の設置を呼び掛ける女性消防団員（三重会館前にて）

宅火災警報器の設置を呼び掛けました。また、津と久居地域の女性消防団員もキャンペーンに加わり、女性団員が、「住宅用火災警報器の設置をお願いします」と呼び掛けると、男性サラリーマンは、「もう、設置しましたよ。」と答え、足早に家路に消えていきました。

市消防本部では、同市役所本庁舎一階の玄関ロビーにも同警報器の見本など、取付け場所や注意点などを紹介したパネルを掲出して設置啓発に努めています。



がんばれ Rescue!

久居消防署 久居署（ロープブリッジ救出隊）



○久居消防署 久居署

ロープブリッジ救出隊

去る四月二十三日、東海地区消防救助技術指導会に出場する隊員の訓練開始式が行われました。同日から、久居消防署久居署では、ロープブリッジ救出という種目に出場するため訓練を開始しています。

この種目は、四人一組（要救助者を含む）で、設定された渡過ロープにより、対面する搭上に二名が進入し、要救助者を救出後、脱出するまでの安全確実性と所要時間を競うものです。今回日々訓練に励む四人について、一問一答形式でレポートしてみました。質問項目については、次のとおりです。

- ① 救助隊になつたきっかけ
- ② 救助訓練を通じてあなたが目標とするテーマは？
- ③ 実務も含め、救助隊をして良かったことは？
- ④ 日々の訓練等で辛いことは？
- ⑤ 余暇はどんなことをしていますか？
- ⑥ 最後に好きなことをどうぞ



松田高志（三三歳）
四番員（チームリーダー）

- ① 以前の経験を活かし、更なる技術の向上を目指したかった
- ② 団結力・技術・体力の向上
- ③モチベーションの向上

- ④ 疲労感の増加
- ⑤ 子守・家事手伝い
- ⑥ 長年の経験を活かし、チームリーダーとして精一杯頑張ります



大原康也（二九歳）
一番員

- ① 救助技術指導会に出場したかった
- ② 団結力・技術・体力の向上
- ③ 団結力・技術・体力の向上が出切る事
- ④ 体のいたるところが痛くなること
- ⑤ 睡眠
- ⑥ 悔いがないように頑張ります



妹尾典宏（三〇歳）
二番員

- ① 若い時にしか出来ないと思ったから
- ② 団結力・技術・体力の向上
- ③ 同僚との結束が強くなった
- ④ 上手く出来ないことでの焦り
- ⑤ 休養です
- ⑥ 良い意味で予想外の結果を出します



鳥井優作（二三歳）
三番員

- ① 救助技術指導会を体験したかった
- ② 団結力・技術・体力の向上
- ③ 新しい知識が身に付いたこと
- ④ 度重なる筋肉痛
- ⑤ 体を休めることに専念しています
- ⑥ がむしやりに頑張ります

次号は、障害突破訓練に励む中消防署西分署の皆さんをご紹介します。

消防署だより

名所・歴史紹介

中消防署中署

○阿漕塚・阿漕平治の伝説

市内阿漕町に、阿漕塚と刻まれた小振りの石碑があります。この塚にまつわるのが阿漕平治の伝説です。

その昔、阿漕が浦に平治という親しいの漁夫がいました。ところが、その母が病になりました。日に日に衰えていきました。なんとかならないかと困り果てていると、阿漕が浦にいる「やがら」という魚を食べさせれば、回復するという事を耳にしました。しかし困ったことに阿漕が浦は禁漁の海でしたが、悩んだあげく、ついに海に網を入れ「やがら」を食べさせると、元気になっていました。

だがある嵐の夜、舟に忘れた笠が証拠になって捕らえられ、簀巻きにして海に沈められてしまいました。

この平治伝説は、「伊勢の海あこきか浦に引くあみもたひ重れはあらはれにける」という古歌に基づきますが、平治の名はなく、また謡曲「阿漕」も殺生を



津市阿漕町阿漕塚にて

業とする漁夫の嘆きで孝子伝説ではありません。浄瑠璃になつて宝暦年間（一七五一〜六三）上演、文化十四年（一八七二）改作「勢州阿漕浦鈴鹿合戦 平治住家の段」で広く宣伝され、それをまた芝居に仕組んで「阿漕平治」を実在の人物のようにしたことから、孝子伝説に結びついたので。 (横山博)

～ 4月中の災害 ～

火災 13件 (48件)

救急 899件 (3,879件)

救助 16件 (51件)

↓5月9日、三重県生涯学習センターにおいて、危険物取扱者試験の予備講習会が開催されました。



↓5月9日、全国的に増加している硫化水素事故に関する研修会が消防本部で行われました。



カメラアングル

↑5月18日、三重中央自動車学校にて交通安全フェスティバルが行われ消火器の取扱いや煙体験等消防署のイベントブースも展示されました。



↑5月18日、志登茂自主防災組織の防災訓練が北消防署北署職員の指導のもと行なわれました。

○編集後記
今年のゴールデンウィークは全国的に穏やかな行楽日和でしたが、ミャンマーでは大型サイクロンによる大洪水が発生し、国連の推計では水害や疾病により一五〇万人に被害が出ると予測されています。また中国では、M8.0の強烈な地震が襲いました。当地方でも、平成十六年の台風二十一号の影響で、災害救助法が適用される程の水害が発生し、大きな被害を受けました。また、いつ起こるか分からない東海・南海・東南海地震も危惧されています。間もなく梅雨の時期に入りますが各種災害に備え、防災バックを整備したり、地域の防災訓練に参加するなど、いつ起こるか分からない災害に備えたいですね。(大東雄一)

- ☆ 6月の行事予定 ☆
- ・6月1日
津市水防訓練
(木造町 雲出川左岸緑地公園内)
 - ・6月8日～14日
危険物安全週間
(各施設で訓練等が行われます)
 - ・6月15日
三重県消防協会中勢支会夏期訓練
(メッセウイングみえ)